

秘

第二號

昭和十二年
十月十七九日

平湖新豐鎮附近
戰鬥詳報

步兵第六十六聯隊第一大隊

1781

目次

- 一 戦闘前ニ於ケル彼我形勢概要
- 二 戦闘ニ影響ヲ及ボセシ天候氣象戦闘地状態
- 三 各時期ニ於ケル戦闘経過及攻撃部署
- 四 参考トナルベキ所見
- 五 勲功顯著ナルモノ
- 六 死傷者表

1782

昭和十二年十月十六日 平湖新豊鎮附近、戦闘詳報

一、戦闘前ニ於ケル彼我形勢ノ概要

八、廣陳鎮附近ニ於テ相當頑強ニ抵抗セル敵ハ我軍ノ

攻撃ニ依リ遂次西方ニ敗退中ニシテ平湖東北側地區

ニハ數線ノ既設陣地アルモ配兵ノ狀況詳ナラス

然レトモ十月十四日我々飛行機ヨリノ通報ニ依リハ

敵兵及土民ハ廣福橋附近「ク」ヲ十數隻ノ

毎ニテ平湖附近ニ退走中

只平湖附近ニ動搖ナキモ増援隊侵入シアルモノ如シ

2、平湖附近ニ一部敵兵アルモノト判断セラレモ主力

ハ既ニ退却セルモノ如シ

二、戦闘ニ影響ヲ及ホセシ天候ニ米象戦闘地ノ状態

ハ天候 三日共雨

二、氣象

濃霧カ深クシテ概シテ温暖ナリ

但シ十八日夜ヨリ寒ミ氣加ハル十九日ニ至リテ寒冷

ヲ覺ユ

3. 戦闘地ノ状態

道路

姚家港西方地區ヲ平湖ニ通スル新道ハ

最近建設セルモノ、如ク土質粘土泥濘ニシテ

諸所橋梁未完成ノ個所多クモ搬ネ諸兵

ノ通過ヲ許ス

平湖―嘉興道ハ自動車道ニシテ諸兵ノ通

過支障ナキモ敵兵退却ニ際シ橋梁焼却

多ク相當ニ補修ヲ要スルモノアリ爲ニ前

進意ノ如クナラス

水路 自動車道以外ハ、ク、多ク戦闘
行動中包圍迂回ハ時機ヲ失スルモノアリテ敵
ヲ殲滅スルコト困難ナリ 堤防墓地ハ據點トシ
テ或ハ砦砦位置トシテ又展望位置トシテモ
利用セラル

大鼓橋ハ展望ニ良ク諸事ハ通過ニ不便ナリ
住民地 一般ニ稠密ニシテ附近ニ竹林アリ掩蔽部
掩蓋鏡坐等ハタタ竹林ヲ桑畑、林縁近ク
ヲ利用シアリテ之カ發見困難ナリ

三 各時期ニ於ケル戦闘經過及攻撃部署

十一月十七日夜雨

第一、十一月十六日聯隊ハ吉字村ニ於テ後方殘置部隊
ノ招致ヲナス大隊モ亦後方ニ殘置或ハ特別任務
ニ就キ在リシ部隊(234)ノ常握ヲ十七日朝迄ニ

終ル宿營地タリシ吉宇坊より前九時出發泥濘ナル
畔道ノ難行軍ヲ續ケ間ミナク第三中隊ノ一隊ヲ以
掩護ニ残置シ午後七時過李冢港ニ到着同地於テ
左記聯隊命令ヲ受領ス

歩六六作命 甲第三十六號

步兵第六十六聯隊命令

十月十七日午後七時三十分
旅團司令部ヨリ

一、

敵情ニ就テハ新報ヲ得ス 旅團ハ李冢港及其東方

坳區ニ宿營ス

二、

前衛タル聯隊一部ヲ以テ李冢港西方約ニ。米北方

ニ通スル大クリークト點線路トノ交又點ノ渡河點ヲ占

領シ該地警戒並敵情ヲ搜索セントス

前兵タル第三大隊（第九第十一中隊各一）聯隊機關

銃ニ合ノヲ附ス）ハ前衛トナリ一部ヲ以テ港西方約ニ

〇〇〇米大クリークト點線路トノ交又點ノ渡河

三

點ヲ占領シ該地ヲ警戒セシメ爾餘ハ其ノ東方
約千米部落附近ニ在リテ點線路ヨリ以北クリク
ニ亘ル線ヲ西方並ニ北方ニ對シ警戒スヘシ

三、第一大隊（第一、第四中隊）聯防機、銀ニ人カノ一
ヲ附ス）ハ左前哨トナリ李家港西方七百米附近
ノ部落ヲ利用シ右ハ第三大隊ニ連繫シ點線路ヨリ
南方クリク間ヲ西方並ニ西南方ニ對シ警戒
スヘシ

四、西前哨ノ搜索地境ハ李家港獨立家屋ヨリ
聯隊本部ヲ經テ南北クリク中間線ヲ西方ニ連ネ串
堂里ヲ連ヌル線トシ線上ハ左前哨ニ屬ス

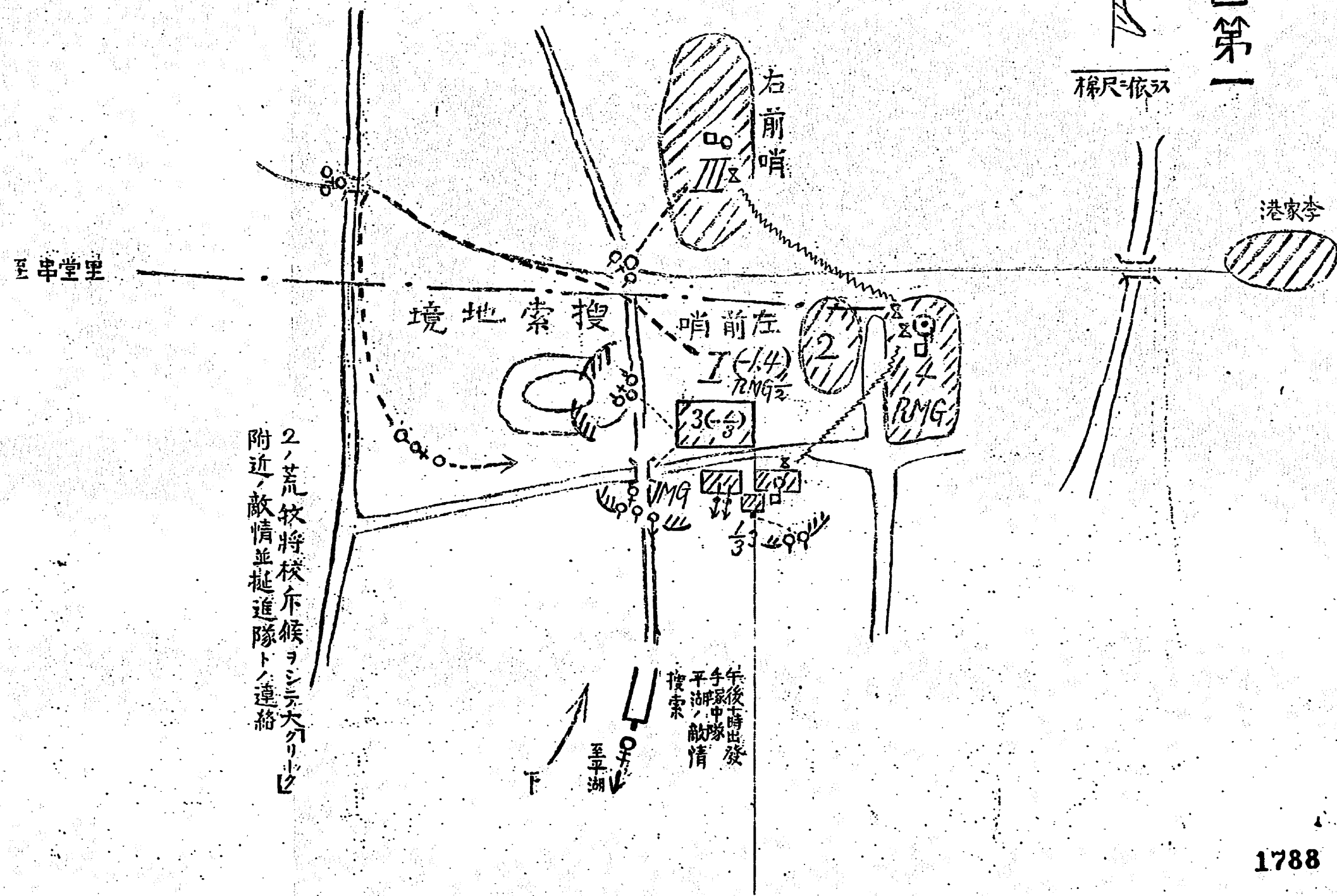
五、第四、第九中隊ハ李家港西方四〇〇米部落附近
ニ於テ村落露管スヘシ

六、各隊ハ宿營區域四周ニ警戒兵ヲ配置シ嚴警戒スヘシ

圖要備配戒警隊大一第哨前左

ルヶ於=夜日七十月一十

附圖第一



七 前哨本隊ハ掩蔽家屋ヲ利用スルコトヲ得但シ三ノ

一ハ常ニ戰備ヲ整正ヘアルヘシ

八 給養ハ現地物次第ニ依ルヘシ

九 合言葉ハ「常」トス

十 余ハ聯隊本部ニ在リ命令受領者ヲ出シ置クヘシ

聯隊長 山田中佐

下達法 命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム

(注意)

一 當地方ハ敵ノ陣地線ニシテ「ト」チカ及掩蔽セル陣地アリ掃蕩ヲ完全ニスルコト並ニ屋内ニ手榴彈發見セシニ付損害ヲ蒙ラサルコト

第二 右聯隊命令ニ基キ左記要旨ノ大隊命令ヲ下達ス

(附圖第一參照)

左前哨第一大隊命令

十一月十七日午後九時三十分
於李家透西ノ無名部落 大隊本部

- 一、敵情及聯隊ノ企圖別紙聯隊命令ノ如シ
- 二、大隊（第一、第四中隊欠）聯隊機関銃ニ分クテ厩舎セラル
ハ左前哨トナリ李家巷西方セ。米附近ノ部落ヲ利用シ
右ハ第三大隊ニ連繫シ點線路ヨリ南ニククリーク間ヲ西方
並西南方ニ對シ警戒セントス
- 三、第三中隊ハ前哨中隊トナリ右ハ本道（合ル）ヨリ左クリ
ークニ亘ル間ヲ西ク及西南方ニ對シ警戒スヘシ
第二中隊ヨリ將校ノ指揮スルニテ今隊ヲ出シ本道上西方
（約二軒）ノ大クリーク附近ノ敵情並地形ヲ搜索スルト
共ニ同地附近ノ挺進隊ト連絡スヘシ
- 四、第二中隊々第一機関銃中隊聯隊機関銃隊ハ本隊
トナリ要圖ノ如ク位置スヘシ
各隊ハ宿營地ノ四周ニ對シ警戒兵ヲ配置シ嚴警戒
スルノ外宿舎毎ニ複哨、銃前哨ヲ配置スヘシ

五、右前哨ト、搜索地境ハ李家港獨立家屋ヨリ聯隊本部ヲ經テ南北ハク、中間線ヲ西クニ連テ、串堂里ヲ連テ線トス。線上ハ左前哨ニ屬ス。

六、前哨中隊ハ掩蔽家屋ヲ利用スルコトヲ得、但シ約三分ノ一ハ常ニ戰備ヲ整ヘアルヘシ。

七、給養及合言葉ハ從前ノ通りトス。

八、余ハ大隊本部ニ在リ、命令受領者ヲ出シ置クヘシ。

第一大隊長 一 刈 少 佐

下達法 各隊長ニ要旨ヲ傳ヘ、後命令受領者ニ口達。

筆記セシム

注意

八、介候、歩哨線ニ出入場合ハ懷中電燈ヲ以テ合圖スルモトス。

第三、午後十時第二中隊荒牧將校介候ヲ本道上約二軒ニ更ニ聯隊命令ニ依リ平塚中尉ハ部下第四中隊ヲ指揮シ平塚縣城ニ通スル道路並其ノ附近ハ敵情搜索ヲ命セラレ夫ニ出發ス。

第四、午後十一時左記聯隊命令ヲ受領ス。

歩立介作命甲 第三十七號

步兵第六聯隊命令 十月十七日 午後十一時、分

一、敵情ハ既知ノ如シ。旅團ハ明日十八日前進ヲ續行シ、姓家村西方大クリ、西方地區ニ前進ス。

二、聯隊(編組同ノ如シ)ハ明日十八日前衛トナリ前進ヲ續行シ、姓家村西方大クリ、西方地區ニ前進セントス。

三、各隊ノ行軍部署本十七日ニ同シ。

四、前兵ハ其ノ先頭部隊ヲ以テ現在占領シアル圖上橋梁ヲ先頭トシ、午前八時マニ途上縱隊ニ集合スヘシ。

五、本隊タル諸隊ハ本十七日ノ行軍序列ニ隨ヒ、午前八時迄ニ聯隊本部ト橋梁トヲ連テ、道路上ニ橋梁ヲ先頭トシ、途上

縦隊ニ集合スヘシ

六、余ハ午前八時太クリーク橋梁ニ在リ同時命令受領者ヲ出スヘシ

聯隊長 山田中佐

下達法 命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム

第五、右聯隊命令ニ基キ左記要旨ノ大隊命令ヲ下達ス

大隊命令

十一月十八日午後十一時三十分
於李家港 大隊本部

一、敵情並友軍ノ情況聯隊命令ニ如シ

聯隊ハ明日八日前衛トナリ姚家村西方太クリーク西方地區ニ前進ヲ企圖ス

二、大隊ハ本十七日ノ行軍序列ヲ以テ午前八時迄ニ各露營

前本道ニ集合シ前衛本隊ノ行軍序列ニ入ラントス

三、余ハ午前八時本道橋梁ニ在リ爾後大隊ノ先頭ニ在リテ前進ス

六

第一大隊長 一川少佐

下達法 命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム

注意

人行軍間連絡及遞傳ハ各隊長ノ責任トス

第六、午後十一時三十分荒牧將校介候ノ報告ニ依リ敵情

ニ関シ新報ヲ得スクリーク附近ニ挺進隊モ未タ

到着シアラズ

十一月十八日 雨

第七、平塚中隊ハ午前二時頃歸還スヘク命令セラレタルニモ午前

六時過中隊長ノ先行シ末タリ左ノ如キ情況ヲ承知ス

ハ午後十一時五十分平湖東北方五軒東陳附近ニ尖兵

小隊小隊ト敵警戒兵ト遭遇シ之ヲ驅逐シテ前進ス

前二時三十分平湖北門ヲ占領シ日章旗ヲ掲揚セリ

二、本道ハ新設道ニシテ諸所ノ橋梁ハ破壊セシアルモ

諸兵ヲ通過シ得

3. 兵員昨夜食ミ眠セム加フルニ豪雨坭濘ノタメ
疲勞困憊セルモ克ク任務ヲ遂行シ急進中ナリ
右報告ニ依リ秋山旅團爾後、進路ヲ平湖——嘉興道ニ
変更スルニ至ラシムル有力ナル資料ヲ提供シ進路ヲ確實
迅速ナラシムルヲ得タリ

第八左記聯隊命令ヲ受領シ第二中隊ヲ旅團豫備隊ニ充

四中隊ヲ大隊ニ復歸ス 大隊ノ行軍部署

ヨ 附 圖 示 示 (大休止ノ上追及ヲ命ス)

歩兵第六聯隊作命 第三十八號

歩兵第六聯隊命令 十月十八日午前八時半

一、第十八師團ハ嘉興ニ接近シ敵ヲ攻撃中ナリ

奥旅團ハ本十八日大通橋鎮ヨリ楓経鎮ニ接近ス旅團
ハ平湖ヲ経テ嘉興ノ東側約四杆東柵鎮ニ向ヒ前進ス

三、聯隊（配屬四、如シ）第二中隊又ハ先遣隊トナリ即時出發シ旅團進路ヲ東柵鎮ニ向ヒ前進セントス

歩兵第百ニ聯隊ノ歩兵部隊ハ現在地ニ集結先遣隊ノ後方ヲ續行ス。昔尙ホ車輛部隊ハ其ノ後方之ヲ續行ス

三、第三大隊（配屬四、如シ）十一中隊又ハ前衛トナリ旅團ノ進路ヲ東柵鎮ニ向ヒ前進スヘシ。爾餘ハ本隊トナリ左ノ行軍序列ニ前衛ノ後方ニ三百米ヲ續行スヘシ
通信班（ノ四又配屬附ノ之）

四、第二中隊ハ爾今旅團長ノ指揮ニ入り李家港南方千五百米ヲ本道トシ又又點ニ集合シ旅團ノ指揮ヲ受ケヘシ

五、余ハ本隊ノ先頭ニ在リテ行進ス命令受領者ヲ出シアルヘシ

下達法

西大隊長口達、外命令受領者ヲ集メ

口達筆記セシム

第九

正午聯隊ハ平湖附近、殘敵ヲ掃蕩シ午後二時平湖西

端ニ進出行軍ヲ續行ス

午後六時十五分菅田濱北側橋梁附近ニ於テ我前衛

敵ノ射撃ヲ受ク

前衛タル第三大隊ハ直チニ此ノ敵ヲ攻敗スルト共ニ

大隊側ニ對スル警戒ヲナスト共ニ部隊ヲ集結シ

敵ハ機銃ヲ有スル歩兵約四五十ニテ橋梁ノ燒却掩護

隊ナルモノ、如シ湖東濃橋梁ハ燒却セラレ前衛及

我兵ハ之ヲ補修ヲナス 當面ノ敵ハ本道ヲ嘉興

ニ回ヒ退却セルモノ、如シ

十一月十九日 雨

第十、十月十九日午前二時五十分左記聯隊命令ヲ受ク

歩立立作命 甲 第三十九號

歩兵 第六十六聯隊 命令

十一月十九日 午前一時三十分
於新豐鎮東方二軒油車橋降隊本部

一、荒田瀨(新豐鎮東方約二軒)ニ於テ我ヲ阻止シタル

敵ハ輕機関銃ヲ有スル約五十名ニシテ該敵ハ

橋梁燒却シ全圖ミタルモ爾後退却シタルモ如シ

旅團ハ新豐鎮ニ宿營ス

二、先遣隊タル聯隊ハ新豐鎮西方約二軒油車橋

クリーク橋梁西方ノ線ヲ占領シ主トシテ西方ニ

對シ警戒セントス

三、前衛タル第三大隊(編組同ノ如シ)ハクリーク橋梁

北岸(指示シタル線)ヲ占領シ主トシテ西方及北方

ニ對シ警戒スヘシ

四、西大隊ノ搜索地境ハクリークノ線トス豫備隊

タル第七中隊ハ油車橋東側附近ニ位置スヘシ

五、各隊ハ、警戒ヲ嚴シシ豫備隊ニ於テハ、一假眠ヲ許ス
六、給養ハ、現地物資ニ依ルヘシ但シ、火ノ焰ヲ外部ニ洩ラサ
サル如ク注意スヘシ

七、本夜ニ於ケル合言葉ハ、「富」「富」「トス

八、余ハ、聯隊本部ノ位置ニ在リ命令受領者ヲ出
シ置クヘク

聯隊長 山田中佐

下達法

聯隊本部書記ニ口達筆記セシメ、遂ニ到着セル部隊ニ付ス
第土、十月十九日午前三時、油車橋、橋梁北端ニ於テ、聯

隊命令ニ基キ、左記要旨ノ大隊命令ヲ下達ス

大隊命令

十一月十九日、午前三時、
於油車橋南端ニ、隊本部

一、敵情及友軍ノ状況、聯隊命令ヲ如シ

聯隊ハ、新豊鎮西方約二村、油車橋、タリ、橋梁
ル

- 二、兩岸ノ線ヲ占領シ主トシテ西方ニ對シ警戒ヲス
大隊（三分二聯隊機関銃ヲ屬ス）ハ橋梁南岸ヲ
占領シ主トシテ西方及南方ニ對シ警戒ヲセントス
第三中隊ハ「クリーク」西南ニ百米ノ軒家附近ニ位
置シ第一機関銃中隊ノ一中隊ハ橋梁南端附近ニ於
テ西方及クリーク南側附近ヲ射撃シ得ル如ク
陣地ヲ占領スヘシ
- 三、右第三大隊トノ搜索地境ハクリーク線トス
爾餘ノ諸隊ハ大隊副官ノ指示ニ依リ露營スヘシ
- 四、各隊ハ警戒ヲ嚴ミシ豫備隊ニ於テ三分一ノ假眠ヲ
許ス
- 五、給養ハ現地物資ニ依ルヘシ 但シ火焰ノ外部ニ
洩レサル如ク注意スヘシ
- 六、合言葉ハ「官」「衛」トス

七 余ハ大隊本部ニ在リ命令受領者ヲ出シ置クヘシ

第一大隊長 一川 少佐

下達法

各隊長要旨傳へ後命令受領者ニ口達筆記セシム

第十二 大隊ハ警戒備ヲ嚴ニシ夜ヲ徹ス

午前六時頃騎馬兵約ニ三十騎ハ右第三大隊ノ警戒

戒線ヲ突破セントシタルニ依リ俄然射撃ヲ以テ之ヲ

撃退セリ 我大隊ニ直ニ警戒命令傳へ合配備

就キ夫々警戒戒スルト共ニ第三大隊ト連絡ス 敵

遺棄死体数名馬十八頭ヲ残シ遺走シタリトノ情况ヲ知ル

第十三 午前六時三十分左記聯隊命令ヲ受領シ之ヲ下達ス

歩立六作命 甲三十號

歩兵第百六聯隊命令 十一月十九日 午前六時三十分
於新豊橋方面ヲ油車橋 聯隊本部

一 敵ハ西北方ニ退却セリ 旅團ハ本十九日午前八時

二、

現在地出發東柵鎮ニ向ヒ前進シ敵情地形ヲ偵察ス前進ノ爲ノ行軍部署ハ去ル十八日ノ如シ聯隊(第二中隊ヲ欠キ但ノ如シ)ハ前衛トナリ本十九日東柵鎮ニ向ヒ前進シ敵情地形ヲ偵察スル目的ヲ以テ午前八時油軍橋ヲ先頭トシ途上縱隊ニ集合セントス

三、

第三大隊(編組四ノ如シ)ハ前兵トナリ前衛ノ進路ヲ前進シ東柵鎮ノ敵情地形ヲ搜索スル爲現第一中隊ノ位置ヲ先頭トシ集合スヘシ

四、

爾餘ノ諸隊ハ前衛本隊トナリ聯隊本部南側烟地ニ集合スヘシ但シ行軍ニ當リテハ左記行軍序列ニ依ルヘシ
通信班 第十一中隊ノ一隊 聯隊本部 第十一中隊(一隊欠) 第一大隊

五、

余ハ聯隊本部ノ先頭ニ在リ

同時命令受領者ヲ出シアルヘシ

聯隊長 山田中佐

下達法 各隊命令受領者ニ口達筆記セシム
注意

一、敵野砲兵ノ射撃ニ注意シ前進スルコト

二、徐歩市（新豊鎮西北方約五村）北端ト東柵

鎮ノ北端トヲ連スル線ニ第十師團トノ境界

トス

三、退却ヲ豫想スル敵ハ柵州方面ニ退却スル

モノト判断ス左ニ警戒スルコト

四、敵砲兵ヲ顧慮スル時ノ前衛ハ丁家溝附近

ニ止マルニト

第五、降雨ノ中ヲ午前八時三十分宿營地出發東柵鎮ニ向

ヒ前進ス

第五 戰闘經過、概要別紙附圖第二、如シ

第六 午後四時過、東柵鎮西方一軒、砲臺附近、到着同
地、宿營ス

左記聯隊命令、又領シ同時大隊命令、下達ス

歩兵連命令第三十一號

步兵第一聯隊命令

十一月十五日午後四時十五分
旅團司令部より、聯隊本部

一、聯隊ハ上陸以來茲ニ一旬ヲ経、四里橋、廖陳鎮、平湖

ヲ奪取シテ、軍ノ第一作戰目標タル嘉興ニ進入シ、軍旗ニ

俾テ、先移リ、敵ヲ西方並ニ西南ニ方ニ潰走セシメタリ

旅團ハ本夜東柵鎮附近ニ宿營ス、嘉興ニハ友軍旅

團、但師團進入ス

二、聯隊(既屬部隊元、如シ)ハ東柵鎮西方千米附近ニ

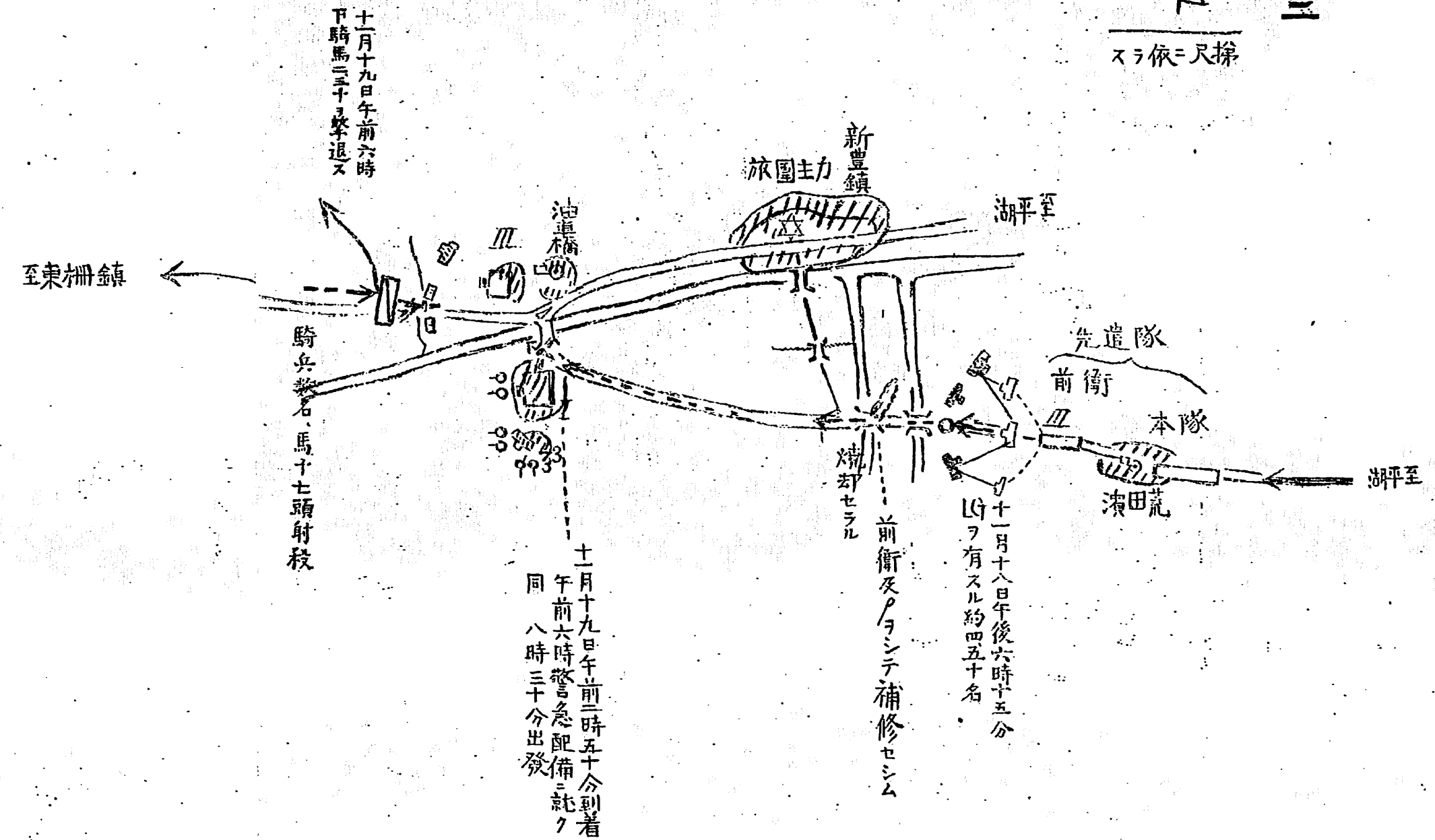
宿營セントス

新豊鎮附近戰鬪經過要圖

十一月十八日夜ヨリ十九日ニ至ル

附圖第二

スラ依ニ尺掾



- 三、各隊ハ設営者ノ指示スル區域ニ村落露管スヘシ
第三大隊ハ南方ニ對シ第一大隊ハ北方ニ對シ露管地
前側方約ニ百米附近ニ下士哨ヲ配置シ宿營地直接
警戒ヲ設ケ且ツ巡察ヲシテ巡察セシメ敗殘兵ノ搜索
並進入ヲ警戒スヘシ
- 四、第一中隊ハ日ノ直接警戒ニ任シ軍旗ニ單哨ヲ配
置スルト共ニ別ニ指示スル位置ニ警戒兵ヲ配置スヘシ
通信班ハ日ノI.P.O.ニ對シ三局一國線ノ通信網ヲ架
設スヘシ
- 六、給養食ハ現地物資ニ依ルヘシ
- 七、余ハ聯隊本部ノ位置ニ在リ
命令ノ受領者ヲ出シ置クヘシ

聯隊長 山田中佐
下達法 各隊命令受領者ニ口達筆記セシム

第一大隊命令

十一月十九日午後五時三十分
於東柵鎮西方千米 大隊本部

一、聯隊命令ノ要旨左ノ如シ

(一) 聯隊ハ上陸以來茲ニ旬ヲ経四里橋廣陳鎮平湖ヲ
奪取シテ軍ノ第一作戦目標タル嘉興ニ進入シ軍旗ニ
偉大ノ光彩ヲ奉致シ敵ヲ西方及西南方ニ潰走セシメタリ
旅團ハ本夜東柵鎮附近ニ宿營ス嘉興ニハ友軍並
他師團進入ス

(二) 聯隊(配屬部隊亦在シ)ハ東柵鎮西方千米附近ニ
宿營セントス

(三) 各隊ハ設營者ノ指示スル區域ニ村落路ヲ管スヘシ
第二大隊ハ南方ニ對シ第一大隊ハ北方ニ對シ宿營地
前側方約二百米附近ニ下士哨ヲ配置シ宿營地ノ
直接警戒ヲ設ケ且ニ巡察ヲシテ警戒セシメ敗殘者
ノ搜索並ニ進入ヲ警戒スヘシ

二、大隊ハ設營者ノ指示ニ從ヒ本夜東柵鎮西方千米敷

紙工場ニ村落露營セントス

三、各隊ハ露營地直接歟言成、外第二中隊ヨリ下士哨
一ノ指營地北方約三百米ノ地点ニ配置スヘシ（細部ハ現地

ニ於テ指示ス）

四、歟言急集合所ハ各隊宿舎前トシ非常ノ場合ハ直
チニ集合シ命令ヲ受領者ヲ本部ニ差出スヘシ

五、戰備ノ度ハ從前ノ通りトシ特ニ敗殘兵多敷アル見ハ
ニ付嚴ニ注意シ徒手ノ儘外出スル事ヲ禁ス 渡邊

少尉ハ巡察將校トス

六、給養ハ從前通りトス

七、余ハ露營地大隊本部ニ在リ

第一大隊長 一川 少佐

下達法 命令ヲ受領者ヲ集メ口達筆記セシム

一三

1806

聯隊長注意事項

1. 人員調査彈等ノ整理射殺彈報告武器被
服ノ手入及行動間ノ未整理ヲ整理スヘシ
2. 宿營地内ニ便衣ノ敗殘兵相當多敷アルニ付油
断セサル事

3. 無帶剣無警備ニテ行動セサルコト

4. 各隊長ハ急務ヲ整理シ聯隊本部ニ報告スルト共
ニ野戰病院ト連絡シ移送スル事

5. 時日アラハ整理上ノ整理ニ行ハシムルコト

6. 第三第一大隊ハ連接友軍部隊ト既可ク連絡ヲ取
リ各隊無ニ融和ヲ計ル事

四、參考トナルヘキ所見

1. 荒田遺附近ノ戦間後敵橋梁燒却企圖ヲ察知シタル
友軍ハ之ヲ急追シ油車橋ノ橋梁附近ニ進出シタル我先

遣隊ノ行動ハ次明戦闘ニ大ナル効果ヲ與ヘタリ
敵ハ十月十九日拂曉騎馬兵ニ三十名油車橋ニ駐ル
セルヨリ見テモ其ノ企圖ノ一端トモ察知スルヲ得ヘシ
之、敵兵ノ巧ナル欺騙ニ來セサルノ注意ニ必要ナリ

支那軍ノ一部ハ日本語ヲ使用シテ十六聯隊カ、百二聯隊
カト聯隊號ヲ稱呼シツ、近接我カ歩哨ヲ欺、ハットシタリ
ト聞ク、以テ警告戒上注意ヲ必要トス

五、勲功顯著ナルモノ

第四中隊及 中隊長 歩兵中尉 平塚 清

上月十七日午後十時本隊遂に出發シ平湖附近ノ敵情
並地形偵察ヲ命ゼラル、ヤ當時中隊ハ夕食モ喫シ
アラス其ノ上ニ雷鳴ト其ニ降雨如ハリ新道ハ坑濘甚シ
ク前進容易ナラス

午後十一時五十分平湖東北方五村東陳鎮橋梁附

近ニ於テ敵ノ警言或兵ト遭遇セルヤ之ヲ飄遠シ急進シ
困難ナル情況ヲ克服シテ午前二時三十分平湖ヲ占領セリ
翌十八日午前七時宿營地歸還有カナル報告ヲ呈シ旅
團長ヲシテ爾後ノ作戦行動ヲ容易ナラシメタリ其ノ
功績拔群タリ

六、死傷者數

別表第一ノ如シ

七、其他

國儀表、武器、彈藥、履物表及其他者、其ノ

平湖新倉鎮附近戦闘

戦闘詳報第一號附表

昭和十一年十月至十八日 第一大隊死傷表

考備	總計	歩兵第一大隊				團區分		死	傷	生死不明
		聯隊	第一中隊	第二中隊	第三中隊	本部	隊號			
	一。	三	一	二	四		將校 下士 卒	戰闘参加人馬		
	三九七	四七	五九	一二二	一六九		馬			
							將校 下士 卒			
							馬			
							將校 下士 卒			
							馬			
							將校 下士 卒			
							馬			
							將校 下士 卒			
							馬			
							將校 下士 卒			
							馬			
							將校 下士 卒			
							馬			
							將校 下士 卒			
							馬			